

■令和6年(2024)4月(No32)
 ■発行責任者
 山崎自治会会長
 木村 修

五月祭礼、たこ焼きを手伝っていただける方、募集

「山崎だより」は回覧板と一緒に回ります。各戸毎に一枚お取り下さい。

■椎尾神社祭礼予定 神社総代会・敬神会



- 総代会が開催され、祭礼の日程が決まりました。
- 準備・後片付けの日程
 4月28日(日)／高張り、幟、小旗建て
 ／関大明神(予備日29日)
 5月4日(祝) ／宵宮
5月5日(祝)／祭礼、各種イベント(一般参加)
 5月6日(振替休)／高張り・幟等撤収(予備日7日)
 5月6日(振替休)／御宴(天候による延期無し)

■ファミマ・フード・ドライブⅡ

- 先号で紹介した”もったいない食品”を「ファミリーマート」に持参し、地域パートナーの協力のもと、支援が必要な方に届ける仕組みの紹介続編です。
- 受付可能な食品は下記のとおりです
 ○未開封で破損していないもの
 ○賞味期限まで2か月以上あるもの
 ○常温保存のもの
 例>缶詰、乾物、乾麺、インスタントやレトルト食品、お茶、コーヒー、飲料、調味料、お米等
 ○詳細はホームページ(QRコード)でご確認下さい。



たこ焼き助手募集！！

- 五月五日、椎尾神社祭礼のイベントでたこ焼き作業を手伝っていただける方を募集しています。
- 保険の加入も致します。安心してご参加下さい
- 日当は出ませんが4日の宵宮、6日の御宴にも参加できます
- イベント中の部分的短時間参加でも歓迎いたします。
- 詳細・お問い合わせ・申込み
 ⇒岩井／090-4037-0775

■自治会リサイクル回収 毎月第一土曜日

今月は4月6日(土)

- ダンボール、古新聞・紙、雑誌、古着
 ウェス、牛乳パック、スチール缶
特にアルミ缶は高値で売れます！！
- 3月の回収では
6,075円
 の収入がありました。



■「山崎だより」のアドレスが変更になりました。

スマホやパソコンで閲覧やダウンロードすることができます。

改めて、右のQRコードをカメラで読み込んでください。 QRコード⇒⇒⇒



■山崎年長者クラブ

- 4月7日(日) / 定例清掃奉仕 / 椎尾神社
/ 午前8時30分から / 皆様のご協力をお願いします
- 4月8日(月) / 公民館 / 10:00~
/ 山崎年長者クラブ役員会
- 4月12日(金) / 第1回「趣味の会」
/ 場所: 水無瀬神宮 / 10時~11時30分(現地集合解散)
/ 内容: 「茶室燈心亭の見学」
/ 拝観料: 500円 当日集金
- 4月16日(火) / 連合会会長杯グランドG大会 / 緑地公園広場(受付)8時50分
/ 予備日: 4月18日(木) / 参加希望者は3月31日までに班長さんへ
- 4月23日(火) 令和6年度SC島本総会
/ 午後1時30分から / ふれあいセンター 第4学習室
- 5月20日(月) 連合会春のウォークツアー
/ 行先: 奈良、歴史ある町並み今井町~榎原神宮までウォーク
- 輪投げ / 毎週(金) 曜日公民館で10時~12時まで体力作りと練習を再開しています。



茶室燈心亭



★いきいき百歳体操★

毎週水曜日 公民館14:00~

- 会員以外の方の参加も大歓迎です
- 終了後、茶話会・合唱
輪投げ等を行っています。



■砂場の砂、追加！！

- 「倉が堀公園」の砂が少なくなっていたので、自治会から町に要望し、追加してもらいました。



■西観音寺Ⅲ / 室町時代から安土桃山時代

■1・2月号では、大山崎歴史資料館・歴史講演会「記憶の中の西観音寺」を参考に、天王山山頂の西付近にあった**慈悲尾山寺**の話題を鎌倉時代まで述べました。今回は室町時代から安土桃山時代の話題です。

■南北朝時代の1379(康暦元)年、「山城国乙訓郡西観音寺」の梵鐘を鑄造するとの記載があります。また、室町時代の1399(応永6)年には、足利義満が「慈悲尾寺」に対して「凶徒」(大内義弘)退治の祈禱を命じた記録も残っています。1564(永禄7)年には、足利義輝が湯治として「喜多坊」にて昼休息した際、惣中が巻数を送ったそうです。(注:巻数=経文・陀羅尼だらになどの題目・巻数・度数などを記した文書または目録)

■その後、羽柴秀吉と明智光秀の「天下分け目の天王山」の戦い(山崎合戦)は、山側では天王山の争奪、平地では高山右近の布陣する「東の黒門」付近で始まり、秀吉勢が押す形で「小泉川」「勝竜寺城」と戦場を移していきます。この時、高山右近は自ら先陣を切るため、約定を破って「西の黒門」を閉じ、他の陣営の進出を邪魔したと伝えられます。この合戦については他にも山崎に関わる沢山のエピソードがありますので、後日紙面の都合が付けば記すことにします。

■この時代、大山崎の神人は「山崎油」(荏胡麻油)で油を独占し、栄枯盛衰を繰り返していましたが、織田信長の楽市楽座や、大阪を中心に発展し品質に勝る「菜種油」の出現により、次第にその力を失っていきます。